

ダンノ恵美

活動レポート

2014年
夏号

ご あ い さ つ

市民のみなさま、こんにちは。ダンノ恵美でございます。

1943年に高槻市が誕生して、今年で71年目を迎えています。その間、劇的な人口増加にともなって、商工業施設や住環境、そして医療、教育環境の整備などが着々と進みました。

さらに、長年の念願でもありました保育所の待機児童につきましては、本年4月1日時点で厚生労働省報告基準による人数ではゼロになりました。詳細は別項でお知らせしますが、これには多くの方々のご努力といたしますか、最後まであきらめない不屈の願いが実を結んだものだと思います。

ダンノ恵美は、これからも子育て中の主婦の視点からの提言と行動を続けてまいります。みなさまの変わらないご指導ご協力を賜りますようお願い致します。

三月に実施されました市議会本会議におきまして、ダンノ恵美は市民連合議員団を代表して、図書館の整備や高齢者プラン、防災活動の強化など老若を問わず、市民が希望を持って安心して暮らせる案件について質問をしました。

♥ 「防災」を日常の市民レベルに

1月に全市で実施された防災訓練ですが、非常時を想定した具体的実践的訓練を優先させるべきなのか、あるいは、初めてのことであるので参加者の動員を優先課題とするのかによって、時期の選定はむずかしい判断を迫られるものと思われる。

果たして、今回は参加人数が約5%(約1万9千人)という数字でしたが、想定範囲内として今後もこの参加動員数を基準とするのか、あるいは別の目標をもつべきなのでしょう。

いずれにしても、災害は私たちの都合を考慮してはくれません。人まかせではなく、私たち一人ひとりの意識の中に防災を芽生えさせましょう。

♥ 図書館整備は文化都市のバロメーター

子どもたちの学力の問題の要因の一つとして、活字離れが取り沙汰されますが、それらの原因を作っているのが、私たち大人だという事実謙虚に気づくべきではないでしょうか。

活字離れの一因として、「ゲームばかりやって本を読まない」と嘆く声を耳にします。しかし、そのゲームを作り出し、市場に流通させているのは大人であり社会であることを忘れてはいけないと思います。

子どもたちを責める前に、今一度、私たちは子どもたちにどのような環境を残し、どのような文化を伝承しようとしているのか、真摯に振り返る必要があるのではないのでしょうか。

そしてまた、大人のための憩いの場として、また教養を培う環境づくりの一つとして、五領地区の特徴を生かした正式な図書館の建設と、大冠地区の計画などについて議会に要望をいたしました。

組織的な防災意識を

市内全体の自治会加入率が66.1%、コミュニティ組織への加入率が54.1%と、それぞれの加入率が低迷しています。

そのような中で、コミュニティ市民会議が推進されようとしている地区防災会は、大変意義深い取り組みだと思えます。

今回の訓練によって、活動エリアとコミュニティエリアの整合性についての問題が鮮明になりましたが、防災活動の強化という観点から考えますと、自治会やコミュニティなどの組織への加入率の向上へ向けた取り組みがこれからの課題になるものと思えます。

♥ シルバー世代から、輝くプラチナ世代へ

年齢を重ねるごとに快適な人生にならないければ、何のための人生でしょうか。生きている以上、だれもが迎える高齢生活を冷静に捉え、安心できる具体的展望の策定などについて議論し続ける必要があるはず。

今の国のかたちの礎を築かれたと言っても過言ではない、「団塊の世代」の方々の豊富な経験と、地に足をつけた知恵を最大限に活用させていただくことが、バランスのとれた社会といえるのではないのでしょうか。そのためには、高齢の方にはいつまでも健康でいただかなくてはなりません。

老いてますます健康・健幸であるための一助として、高槻市では市民プールの利用料金が、4月1日より65歳以上の方は半額になりました。さらに「健幸ポイント」事業など、さまざまな取り組みであらゆる角度からのサポートを行っています。



♥ 未来は、現在(いま)の連続

将来や未来という言葉を知ると、まだまだ先のことであり現実感を伴ってイメージにくいという印象がついて回ります。でも、私たち自身を振り返ってみてどうでしょう。10年前、20年前のことがついこの間のように思えることはないでしょうか。同様に、10年前のその時に、10年後や20年後のことと言われると、とんでもない先のことをいわれているような感覚になり、それが現実のことになるのだろうか、不思議な感覚をもったご経験はないでしょうか。

私たちがそうであったように今現在、子どもたちは確実に日々成長していることも事実です。そして、その子どもたちが育つ環境の整備をすることが私たちの仕事であり、義務でもあるといえます。



♥ 「待機児童数ゼロ達成」ここが出発点

今年4月1日現在で厚生労働省報告基準による待機児童ゼロを達成しました。子育てをしながら働く親にとっては、心強い施策だと全面的に支持したいと思っておりますが、ようやくスタートラインに立ったものにとらえています。保育および保育行政につきましては、親子の生活に直接反映されます。それだけに、年度単体の一過性のものではなく、これから先も継続的に取り組まなければならない課題といえます。

たとえば、兄弟姉妹が別々の保育所に通っているという不合理なことや、年度途中での待機児増加ということもあります。それらの解消に向けて今年度には、新しい保育園の開設や臨時保育室などを整備して年度途中の受け入れに対応されます。

子ども子育て支援新制度の周知徹底とともに、より良いかたちでの運営がこれからのさらなる保育の拡充には必要であることは言うまでもないと思えます。



は地域社会の成熟が要になるともいえるのではないのでしょうか。学校や地域との幅広い連携なくして、子どもたちの成長やたくましく生きるための力が培われるとは考えられません。

♥ (仮称)安満遺跡公園は文化・芸術の宝庫

市民とともに育てる公園としてさまざまな分野から期待が寄せられていますが、それだけに市の主体性や市としての責任などが浮き彫りになってきます。かといって、尻込みしては何事も成就することはありません。

子どもたちの拠点として、農業体験や田んぼでの泥んこ遊び、広大な敷地を使った鬼ごっこ、家族や仲間でのバーベキューなど、遺跡公園が果たす役割は計り知れないものがあると思います。



♥ 子どもが主役

夏休みの市営バス「小学生無料キャンペーン」(市バスでぶらりキャンペーン)や子ども(0歳~15歳)の医療費助成や、全市立中学校給食実施など、子どもが主役としていきいきと輝いて成長できる環境づくりが着々と整備されつつあります。

とはいうものの、そのような理想的な環境が一朝一夕にできるものではありませんしこれで完成した、として取り組みが終わるものでもないはずで、社会環境や構造の変化に合わせて、柔軟に対応することが求められますし、物理的な施設や設備は老朽化していきますから、永続的により良い環境づくりに向けた日々の取り組みが求められます。



♥ 子どもたちの居場所づくりを...

地域で育てる地域力の醸成を

「放課後子ども教室」の拡充に取り組むことにより、学習活動はもとより、スポーツ・文化活動、地域の大人や異年齢の子どもとの交流、昔遊びや野外活動など地域のつながりがより密になり、まさに大人の背中を見て育つ環境が提供できる、理想的で素晴らしい事業であるといえます。

ただ、それらのことを実現するために



! ダンノ恵美後援会から お知らせ

ダンノ恵美は日々全力で取り組んでいます、一人の力や行動範囲、そして思考力も限られています。共に行動してくださる方、知恵を出していただける方のお力があってこそ何倍ものパワーとなって、よりスムーズに目に見えるかたちで市政に反映できます。私たちの街を私たちの手で築き上げるために、ご協力をお願いします。

第8回 親睦旅行「日帰りカニ旅行」

平成27年1月末予定

詳細未定。



第5回「ダンノ恵美後援会 歌踊まつり」開催

平成26年12月6日(土)開催 高槻現代劇場中ホール

午前9時開場・9時半開演予定 入場無料。

ご参加・ご協力お待ちしております

